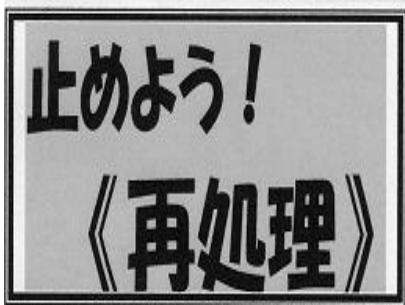


三陸の海を放射能から守る  
岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会  
郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ [再処理/岩手の環境](http://www.coocan.jp)  
[/RI 廃棄物 \(coocan.jp\)](http://www.coocan.jp)  
《本紙の全バックナンバー掲載》



## 《天恵の海》

2024(令和 6年)

4月 10日

第255号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

# さようなら原発岩手集会2024

## 私が原発を止めた理由

講師 樋口英明 氏 元福井地方裁判所裁判長



樋口講師を先頭に 約250人の市中デモ行進

### 講演要旨

私は、原発は蒸気タービンを回し発電するといふ一九世紀以来の蒸気機関であると思つていま

「原発問題」は難しくない  
普通に、素直に、深く考えよう

さようなら原発岩手県集会在三月一七日、岩手県教育会館に一九〇人、ウエブ参加二五人の二一五人が結集し、大飯原発と高浜原発稼働差し止め判決を出した元福井地裁裁判長樋口英明氏の講演を聴きました。樋口氏は原発は日本国民の生存権・人格権に関わる大問題であり、国民が「先入観」を捨て、生活感覚で考えれば解決の道が見えて来ると語りました。

「ただ、蒸気を作るのに「原子炉での核分裂」を利用しては過ぎません。問題は「核分裂」には大きな危険がつきまとうということです。原子炉は「常に人間が管理しなければならぬ」と、「制御出来るなら暴走し止められなくなる」ということ。この二つを知ることと問題の本質がわかります。例えば地震や津波に襲われた場合、原子炉本体が壊れなくても「電源や冷却水」を喪失しただけで、炉心がどんどん高温になりついに「メルトダウン」する。そうなれば人間は近づくことも出来なくなり事故へ発展するのだということです。

U チューブ動画 [さよなら原発 岩手県集会 2024 \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=...)

裁判所は、法と正義による  
公正な判断者であるべき

原発反対の裁判事例の多くは、住民が「基準地震動以上の大きな地震が原発を襲う心配がある」との訴えです。この場合、裁判官は、原子力規制委員会の規制基準が正しいのか、住民の心配が正しいかを公平で合理的に判断する立場にあると思います。その判断のためには現実に行き来している地震の大きさや、原発の受け取った被災の検証こそが判断の決め手となります。日本では一九九五年の阪神淡路大震災以降、地震の加速度ガルや地震波などの測定地点を全国に

一〇〇〇箇所二〇km間隔で網羅しデータを瞬時に把握出来るようにしました。その結果、二〇〇〇年以降一〇〇〇ガルを超える地震が日本列島で十回も起きていたことがわかりました。最高は二〇〇六年の宮城・岩手内陸地震の四〇二二ガルです。これは「震度7は400ガル程度」というそれまでの古い常識（先入観）を覆すもので、巨大地震動について、新しい知見を提供し、原発ごとの「基準地震動」で原発を設計する手法そのものの再検討を促しています。

日本の防衛とは  
国土と国民を守り伝えること

原発は一度事故を起こせば国土全体に影響を及ぼす大災害になります。福島事故では、三機がメルトダウンし、未だ放射能汚染の危機は収束していません。国土と国民を

外国の侵略から守ると同じように、原発危機から守ることは「我が国の防衛問題」です。私は原発を止める事こそを生きる日本人の責任と判断しました。(まこと編集部)

**女川原発2号機再稼働阻止、再処理工場撤廃を！**  
再稼働を許さない宮城アクション  
世話人 多々良 哲氏

女川原発は3・11東日本大震災の震源地から約一三〇kmで福島原発よりも近い。高さ一三三の津波が海抜一四・八の原発敷地を襲い、地震で一辺地盤沈下した原発はたった八〇センチの差で津波被災を免れた。

原発の外部電源五系統中四系統が断絶。一系統でかろうじて生き延びたのです。再稼働申請を出した二号機は、審査に六年間もかかり、その結果、

- ① 建屋のひび割れ合計一三〇箇所。剛性が七割低下した。② 以後大地震が過去三回も襲っている。
- ③ 福島原発と同じ古い「沸騰水型」なので「格納容器が小さく余裕がない」
- ④ 圧力容器制御室の耐震強度が弱い。⑤ 牡鹿半島の山間の道路や港湾は能登と同じように住民避難に多大な困難、等々。今年九月の再稼働など絶対に取り得ません。

**本**

樋口英明著 旬報社二〇一三年七月刊  
「南海トラフ巨大地震でも 原発は大丈夫と言っ人々」



「南海トラフ地震が伊方原発を直撃しても伊方原発の敷地には、181ガル(震度5弱相当)の揺れしか来ない」  
四国電力の主張

上記は、伊方原発緊急差し止め仮処分裁判の広島高裁での意見陳述です。南海トラフ地震は日本海溝付近から、北端を除く四国のほぼ全域を想定震源域としています。住民側は上記のような断定は到底出来ないかと反論しました。しかし二〇一三年三月二四日広島高裁は住民側申し立てを却下しました。(同書八八頁)

**全国各地で 原発ゼロ！ 行動**



東京代々木公園6000人

三月二〇日、代々木公園でさようなら原発全国集会が開催されました。開会直前に冷雨が降り出す悪条件の中、それでも六〇〇〇人が集まりました。

主催者挨拶で落合恵子さんは「現実から目をそらす施策がなされているが、能登での地震は、この地震国日本に原発はいらないと改めて教えました。命を守る原点に戻って行動しよう」と訴えました。集会後、渋谷・原宿コースに分かれ元気にデモ行進しました。

新宿・原宿コースデモ

仙台 1100人



Stop! 女川原発再稼働 全国集会 in みやぎ  
<https://www.youtube.com/watch?v=Xk4BKK1wRXQ>

三月二三日仙台市勾当台公園に千人が集会し、市中デモには千百人が参加、長蛇の列となりました。参加者は、3・11大震災で損傷を受けた女川二号機を九月には再稼働すると国や事業者、県知事が表明したが、このような国民を危険にさらす行為を市民の力で絶対に阻止しようと力強く訴えました。

作家の鎌田慧氏は、東北地方は最も危険な再処理工場や、原発という危険物を抱えたまま取り残されようとしている。私たちは平和で安全な東北を求める、と語りました。

鯉のぼり

雨の中長蛇の市中デモ

講演会のお知らせ

**能登半島地震と原発**

そして狙われる岩手：最終処分場

講師：永田文夫(当会世話人)

日時 4月25日(木) 13時30分~15時

会場 盛岡中央公民館(愛宕町) 第三講義室

入場無料 (資料代300円)

主催 日本ロシア協会岩手支部

関西電力へ申し入れデモ行進



福井：美浜 400人

3月31日福井県美浜町保険福祉センターに、約400人が結集し、「老朽原発止めろ」のデモ行進を行い、関西電力事業本部に申し入れを行いました。井戸謙一弁護団長は「地震多発地帯で原発を運転しているのは日本だけ」と告発しました。